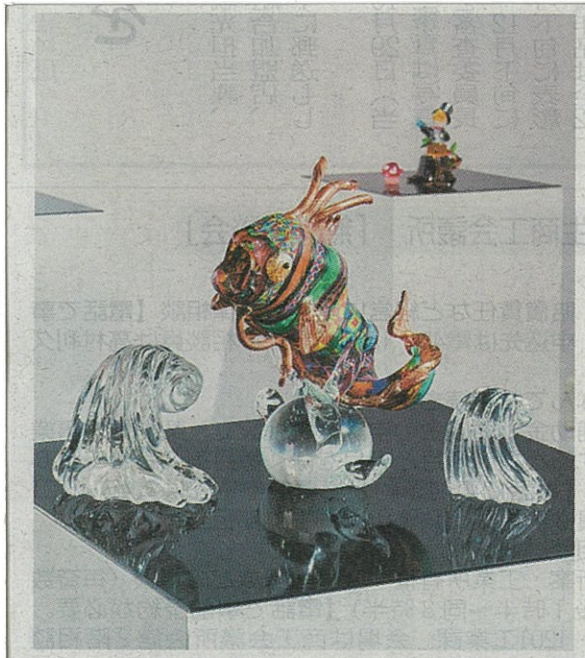
文化・芸術

〈名画の扉〉

大川美術館「桐生のアーティスト 2021 Kiryu POP」から



「神の使い～リュウグウノツカイ～」

2021年、ガラス・ソリッドワーク、ムリーニロールアップ（撮影＝木暮伸也）

小林大輔（1981年～）

一般にガラス工芸というと、生活で使われる皿、グラス、器等々の「用の美」を追求する世界です。しかしガラス作家の小林大輔さんの出品作は、工芸というよりも小動物をモチーフにしたオブジェです。いずれも擬人化され、ちょっとコミカルなポーズをしています。

「神の使い」と題されたシリーズでは、エリマキトカゲ、オウム、カメレオン、そしてリュウグウノツカイがモチーフになっています。「神の使い」というタイトルに、どのような意味があるのかとたずねると、本人からは、「上から降りてきた」と答えるだけでした。

ガラスの硬質な透明感と、極彩色に彩られた有機的な形がミックスされた「神の使い」というオブジェは、きっと終わりのないガラス作りのいちずな情熱なのかもしれません。

（田中）